

3年現代文B「ピア・リーディングで要旨をつかもう」

○学習指導案

1 科目 現代文B（3単位）

2 単元名（教材） ピア・リーディングで要旨をつかもう（内山節「自由論」第9章）

3 単元の目標

- (1) 文章の構成，展開，要旨などを的確にとらえ，その論理性を理解しようとする。（関心・意欲・態度）
- (2) 文章の構成，展開，要旨などを的確にとらえ，その論理性を理解する。（読む能力）
- (3) 文の組み立て，語句の意味，用法を的確に理解する。（知識・理解）

4 単元の指導計画（全4時間）

配当時間	学習活動の概要
1次（3時間） ※本時2時間目	本文を三つに区切り，1時間に一つのパートを読む。ピア・リーディングで本文の読解を進め，要旨をまとめる。（ペア活動）
2次（1時間）	前時に各ペアがまとめた要旨の一覧をクラス全体で読み，内容を共有した後，「日本と欧米のさまざまな違い」というテーマでエッセイを書く。（パフォーマンス課題）

5 本時の展開

	学習活動（生徒）	指導上の留意点（教員）	評価の観点
導入	前時の学習内容を振り返り，本時の学習内容を知る。	前時に各ペアでまとめた各段落の要旨の一覧を全員に配付し，前時の内容を振り返らせる。	(1) 関心・意欲 ・態度 ・ペア活動の観察 ・相互評価の記述の確認 ・振り返りの記述の確認 (2) 読む能力・ 要旨の記述の確認
展開	A，B二人のペアで本文の続きを読む。 ① Aは第5段落の文章を5分で読む。Bは本文を見ない。 ② Aは第5段落の概要をBに説明する。 ③ BはAの説明を再現し，疑問点について質問し，Aが答える。 ④ 役割を交替し，第6段落を読む。 ⑤ ワークシートにより相互評価する。 ⑥ ペアで内容を振り返り，各段落の要旨を30字程度でまとめる。	① Aに，文章に線を引きながら読むよう助言し，Bには自習しているよう指示する。 ② Bにメモを取るよう助言する。 ④ 次の段落に進んでいないペアには，役割交代を促す。	
終結	本時の学習内容を振り返る。 ワークシートの問いの答えをノートに記入し，本時の振り返りをノートに記す。	次の授業日の朝に，ノートを提出するよう指示する。	

6 評価手法

・パフォーマンス課題

「日本と欧米のさまざまな違いについて，考えを述べよう」（エッセイ，600字～800字）

ループリック

観点	評価基準	
文章を読むことを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深める。	A	課題に沿って適切なテーマを設定し、本文を踏まえて自分の考えを述べるができる。
	B	課題に沿ってテーマを設定し、根拠を挙げて自分の考えを述べるができる。
	C	課題に沿ったテーマを設定することができない。または、根拠を挙げて自分の考えを述べるができない。

○授業実践の振り返り

アクティブ・ラーニングの研修会で、ユニークな言語活動に出会いました。ペアの一方がテキストを読み、内容を知らない他方に概要を説明する活動を、役割を交代しながら繰り返し、テキストに対する互いの内容理解を促進するというものです。この活動は、その研修会においては「ピア・リーディング」と呼ばれていましたが、調べてみると、一般にピア・リーディングと呼ばれるものとは少し異なることが分かりました。

池田玲子・舘岡洋子の『ピア・ラーニング入門』によれば、ピア・リーディングは日本語教育の場で生まれた手法であり、グループのメンバーがそれぞれ異なるテキストを読んで情報を持ち寄る「ジグソー・リーディング」と、グループのメンバーが同じテキストを読んで理解を深め合う「プロセス・リーディング」に分類できるそうです。また、グループの一人が文章を読み、その文章について、内容を知らない他のメンバーに説明する活動は、英語教育で用いられる「リテリング（再話）」という活動に似ています。このジグソー・リーディングとリテリングをミックスしたような言語活動を、ここでは便宜的に「ピア・リーディング」と呼ぶことにします。

生徒たちはこの活動に大変真剣に取り組みました。一方だけがテキストを読むため、読み手の側には、聞き手に伝える責任感や、内容読解への緊張感が生まれます。それが集中力を生み、読む能力を育てるようでした。

1次の学習活動では、ピア・リーディングによって真摯に本文に向き合いながらも、内容理解に苦しむ生徒が多くいました。歴史や文化、政治等についての知識が不足しているために、言葉から内容がイメージできないことが原因でした。

2次の学習活動では、生徒たちは、各ペアでまとめた要旨の一覧を読み、クラスで共有しました。その後、パフォーマンス課題として「日本と欧米のさまざまな違い」というテーマでエッセイを書きました。

以下に、A評価の二人の生徒の作品を示します。【資料1】【資料2】ループリックの「本文で学習したことを踏まえて述べる」という基準に関わる部分に下線を付しました。

【資料1 生徒作品例（A評価）】（下線は指導者による）

日本人がアメリカ人のような綺麗ですごくいい身体になるのは無理だと思っている人が多いだろうが、実はそうではないらしい。

結論から述べると根本的な違いは立ち方である。日本人は全体の8割ぐらいが「農耕民族の立ち方」をしているという。日本は農耕の歴史が長く、かかるとに体重がかかった体勢で休んでいるような立ち方をし、そうすると膝が曲がって猫背になるというケースが多いということだ。私自身も猫背なので、この考え方は納得できる。

アメリカ人はどうかというと、狩猟民族なので前に体重がかかって、いつでも走り出せるような状態が立っている姿勢である。だから、アメリカ人のトレーニングは前に体重をかけてするのに対して、日本人は8割ぐらいの人がドスンとかかるとに体重を乗っけてトレーニングするので、全く違う体型になってしまうのである。

アメリカ人のようになりたければ欧米的な立ち方でトレーニングすれば矯正することができる。癖になっているだろうけど、毎回毎回気をつけて直していけば自ずと変わってくるのではないかと思う。

日本と欧米の違いは今回のもの以外もたくさんあると思います。その違いは文化や政治、人間関係などさまざまです。でも、それらのものにはちょっとした原理があった上での違いだと思います。その原理を明らかにしていくことは難しいけれど、考えたいテーマです。

【資料2 生徒作品例（A評価）】（下線は指導者による）

日本人がアメリカ人のような綺麗ですごくいい身体になるのは無理だと思っている人が多いだろうが、実はそうではないらしい。

結論から述べると根本的な違いは立ち方である。日本人は全体の8割ぐらいが「農耕民族の立ち方」をしているという。日本は農耕の歴史が長く、かかるとに体重がかかった体勢で休んでいるような立ち方をし、そうすると膝が曲がって猫背になるというケースが多いということだ。私自身も猫背なので、この考え方は納得できる。

アメリカ人はどうかというと、狩猟民族なので前に体重がかかって、いつでも走り出せるような状態が立っている姿勢である。だから、アメリカ人のトレーニングは前に体重をかけてするのに対して、日本人は8割ぐらいの人がドスンとかかるとに体重を乗っけてトレーニングするので、全く違う体型になってしまうのである。

アメリカ人のようになりたければ欧米的な立ち方でトレーニングすれば矯正することができる。癖になっているだろうけど、毎回毎回気をつけて直していけば自ずと変わってくるのではないかと思う。

日本と欧米の違いは今回のもの以外もたくさんあると思います。その違いは文化や政治、人間関係などさまざまです。でも、それらのものにはちょっとした原理があった上での違いだと思います。その原理を明らかにしていくことは難しいけれど、考えたいテーマです。